

試験研究評価シート（事後）

評価の種類	中間 ・ 事後	担当名	保健科学担当
課題名 (研究テーマ)	デング熱等の蚊媒介感染症 対策についての研究	研究者名	(正) 川上 百美子 (副)
研究期間	平成29～30年度	研究に 要した時間 (概数)	
予算額 (千円)	29年度：513 30年度：513	予算種類	国補 ・ 県単
必要性	地球温暖化や国際交流の活発化に伴い、海外で蚊媒介感染症の流行が拡大している。日本でも、平成26年にデング熱の国内感染例が確認されたことや、世界保健機関（WHO）がジカウイルス感染症について緊急事態宣言をしたことを受け、蚊媒介感染症対策が強化されている。なかでも、デング熱、チクングニア熱及びジカウイルス感染症については、重点的な対策が必要であり、これらの感染症を媒介するヒトスジシマカの生息状況を把握しておくことが、感染症の拡大防止に繋がる。さらに、臨床検体からの迅速な病原体検出や媒介蚊のウイルス保有状況調査を行うことで、蚊媒介感染症の発生予防とまん延防止に繋げる。		
目標	デング熱、チクングニア熱及びジカウイルス感染症は、発熱と全身の発疹を特徴としており、鑑別疾患としてあげられている。そこで、これらの感染症の発生を迅速に把握するため、臨床検体からの病原体遺伝子検出の迅速化を図る。また、媒介蚊からの病原体遺伝子検出方法を確認し、媒介蚊のウイルス保有状況調査の体制を整える。		
研究内容	臨床検体からの病原体遺伝子検出方法を検討し、迅速化を図る。また、蚊の生息調査を行うとともに、捕集した媒介蚊のウイルス保有状況を調査する。		
手法	①PCR法による臨床検体からの病原体遺伝子検出方法について、3つのウイルス（デングウイルス、チクングニアウイルス、ジカウイルス）を同時に測定できる方法を検討し、従来法と迅速性、正確性、検出感度等について比較検討を行う。 ②人が多く集まり、かつ蚊の生息好適地である場所を調査地点とし、定期的に蚊を捕集し、蚊の生息調査を行う。捕集した媒介蚊については、PCR法を用いてデングウイルス、チクングニアウイルス及びジカウイルスの保有状況を調査する。 ③臨床検体や媒介蚊からウイルス検出された場合は、HPやパンフレット等を通じて県民に注意喚起や予防啓発を行う。		
成果	①検査に使用する試薬濃度、反応条件を同一にした新規方法の採用により、検査の効率化、迅速化につながった。また、検出感度は従来法の同等以上となった。さらに、国内感染発生時に備え、遺伝子解析検査を整備した。 ② 県内3施設9地点で蚊の生息調査を行った。また、媒介蚊からのウイルス検査方法を確立し、今回捕獲した媒介蚊からウイルス検査を実施したが、ウイルスは検出されなかった。 ③今回の調査結果はホームページ、年報に掲載している。また、蚊媒介性感染症についてホームページ上で情報提供しており、特に、大型連休などの海外旅行シーズン前には、蚊媒介感染症について海外渡航者向けの予防策や注意喚起を行った。今後もホームページ上で蚊媒介感染症に関する情報提供を継続していく。		
追跡評価	<input checked="" type="radio"/> 有（発生事例があれば報告します。） <input type="radio"/> 無（その理由）		